



兵庫県人権啓発ビデオ

「桃香の自由帳」 (平成23年度作品)

「共生社会と人権」〜つながり・ささえあう わたしたちのまち〜

このドラマは、劇的な事件は描かず、どの地域にも起こりうる出来事に光を当てています。日常の何気ない言動を振り返ることで、現代を生きる私たちが見失いつつある、人と人が寄り添い、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。

東日本大震災後、改めて見つめ直されている「人と人のきずな」。私たち一人ひとりが地域社会を担う一員として、助け合い、支え合って生きる共生社会を創造していくためにはどうすればいいのか。そのヒントがこのドラマに隠されています。

(公財) 兵庫県人権啓発協会発行資料より

▼貸し出し・問合せ 生涯学習グループ

☎079(435)0565



播磨町教育委員会発行
「人権教育のすすめ」第41集より

「わたし」から
「家族」がつながり
「まち」がつながる
そして…
「日本」がつながり
「世界」がつながる
といいですね。

つながる つながる つながる

8月は「人権文化をすすめる町民運動」推進強調月間です

▶問合せ 生涯学習グループ ☎079(435)0565

こころとからだに元気をくれるお話やこころをふるわす映画で、「幸せに生きること」「人を大切にすること」について考えてみませんか。ぜひ、お問い合わせのうえご参加ください。

共に生きよう ふれあいのまち はりま

コミセンのつどい 一ふれあう心 ひろがる輪—

今年も下記の日程で各コミセンでコミセンのつどいを実施します。

場所/実施日/時間	内容
野添コミセン 9月1日(土) 10:00~12:00	○人権啓発講演会 「ご近所力が地域力」 講師：松尾やよい氏(夢こらぼ 主宰)
南部コミセン 9月1日(土) 13:30~15:30	○人権啓発講演会 「地域に居場所と役割を」 講師：中村順子氏(NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長)
東部コミセン 9月8日(土) 10:00~12:00	○人権啓発映画「パートナーズ」 出会いと別れの中で「今」を懸命に生きる 盲導犬のまっすぐな愛の物語です。
西部コミセン 9月8日(土) 13:30~15:30	



(C)劇団東俳つくしんぼくらぶ/劇団東俳

どのコミセンでも、自由にどなたでも無料で参加できます。



(C)劇団東俳つくしんぼくらぶ/劇団東俳

人権啓発映画「パートナーズ」

(上映時間=1時間59分) 文部科学省選定 2010上海国際映画祭コンペティション部門出品作品
監督：下村優 出演：浅利陽介、大塚ちひろ、村田雄浩、川上麻衣子、根岸季衣、夏八木勲 ほか

【物語】19歳のフリーター小山内剛は、知人の死をきっかけに、盲導犬訓練士学校に入学した。みごと准訓練士となった剛が初めて担当する訓練犬は、チ工だった。チ工の訓練を通して心の成長を遂げていく剛だったが、そんなある日、ロックシンガーの真琴が現れる。不慮の事故で失明した彼女は、心を固く閉ざっていた。剛はチ工とともに、真琴の心を開こうと必死になるが、思わぬ事件がチ工に降りかかる…。

「共に生きよう ふれあいのまち」映画会

RAILWAYS [レイルウェイズ]

愛を伝えられない大人たちへ [字幕つき]

▼日時 8月5日(日) 2回上映
【午前の部】(9時30分開場)
10時~12時15分
【午後の部】(1時開場)
1時30分~3時45分

▼場所 中央公民館 大ホール
(駐車場に限りがあります。徒歩か自転車でお越しください)

▼入場無料(満席の場合は入場制限があります)

▼主催 播磨町、播磨町教育委員会

▼共催 播磨町人権・同和教育研究協議会

※公民館ロビーでは、小・中学生の人権標語・ポスター展も同時開催します。

▼問合せ 生涯学習グループ
☎079(435)0565

(C) 2011「RAILWAYS」2 制作委員会

平成24年度人権問題文芸作品「のじぎく文芸賞」募集

詩・随想(手記・作文を含む)・小説・創作童話

兵庫県と公益財団法人兵庫県人権啓発協会では、人権の大切さや思いやり、支え合うことの素晴らしさなど、人権文化の創造や人権課題の解決に関する内容が描かれた文芸作品を募集しています。

▼締切 9月20日(休)(当日消印有効)

▼応募資格 県内在住、在学、在勤の方

▼応募作品 インターネット上を含む未発表・未投稿の自作作品に限りません。また、字数制限がありません

▼応募・問合せ 郵送での応募に限ります

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番地15号
県立のじぎく会館内 (公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係

☎078(242)5355
☎078(242)5360

Eメール
info@hyogo-jinken.or.jp

平成23年度のじぎく文芸賞優秀受賞作品

「ニッコ母ちゃん」

林 明日賀 (加古川市立鳩里小学校3年生)

ぼくは、よく、母ちゃんにおこられる。すく妹に、いじわるをしてしまうから。かたづけを、しないから。ものをよくなくすから。

ぼくが、なってほしい母ちゃん、おこらない母ちゃん。やさしくて、なんでもかかってくれて、おこつかわいってほしいな母ちゃんにもなってほしいなあ。

どうしたら、そんな母ちゃんになってくれるんだろうか。自分のやることは、自分でして、妹にわるくちや、ぼうりよくをやらなければ、やさしい母ちゃんになってくれるのかなあ。自分のやることを自分でしないのは、次にやりたいことがあるからです。妹に、いじわるをするのは、妹が、さきに、なぐつたり、いやなことを言うからです。

明日からのぼくは、次にやりたいことをはじめる前に、心の中で「やることは全部おわたか」自分で、自分に聞くようにする。そうすれば、やることも

妹に意地悪もするけれど、それ以上に仲が良く、いつも頼られている存在です。このたび、明日賀が一生懸命考えてくれたおかげで、私はきつと、ニッコ母ちゃんになれると思います。そして、いつもニッコ家族を目指したいです。

頑張れ、明日賀!!

(公財) 兵庫県人権啓発協会発行
人権総合情報誌「ひょうご人権ジャーナル」きずな2012年4月号より



打製記は人権の世紀